喜界島の隆起サンゴ礁上植物群落

【所　在　地】大島郡喜界町大字中里，大字荒木字アダン山
【種　　別】国指定天然記念物（植物）
【指定年月日】平成２６年３月１８日

喜界島の隆起サンゴ礁

喜界島は奄美大島の東に位置する南北12.5km，東西5.5km の楕円形の島で，地形は平坦で琉球石灰岩の段丘により構成されている。島の周囲はサンゴ礁に縁取られ，北限域にあたる完新世の隆起サンゴ礁が広がっている。

対象地域は喜界島の南西部にある荒木海岸である。喜界島では汀線から標高約20ｍの台地までの間に広い隆起サンゴ礁の段丘が形成されている。汀線の飛沫帯から標高約５ｍまでに，点々と植物が分布する群落から矮性低木群落などの隆起サンゴ礁上植物群落が展開されている。それ以上の高さでは風衝低木林となり，台地付近には沿岸地の樹林が残されており，連続的な植生の帯状分布が良好に見られる。

隆起サンゴ礁地域は平坦地のため人為的な改変されることが多く，かつて植物は園芸目的での盗掘が頻発していた。喜界町では，地域の自然の重要性から，昭和48年６月に鹿児島県内で最も早く喜界町自然保護条例を制定し，開発を規制，海岸植物等の保護を行って，対象地域は，隆起サンゴ礁の北限域にありながら，海岸植生から沿岸地樹林まで連続して残されており，面積も広く多様性の高い植物群落として貴重な地域である。